

# モンゴルの歴史と社会

吉田 順一 著

著者半世紀に及ぶモンゴル関係 25 編の論考を収める。3 部構成をとり、モンゴル帝国の歴史から内モンゴルの遊牧・社会構造まで幅広い視点で考察。モンゴル研究者必携の書。

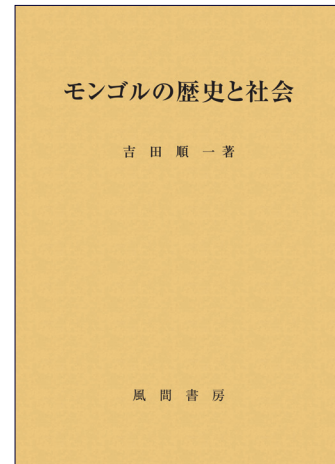
## 【著者略歴】

吉田 順一 (よしだ じゅんいち)

1940年、中国長春(新京)生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、同大学大学院文学研究科東洋史学専攻に進む。1969年に文学部助手、1982年に教授となり、2011年退職。

現在、早稲田大学名誉教授。

他に内蒙古大学名誉教授(1995-)。内陸アジア史学会会長(1996-2005)。公益社団法人日本モンゴル協会会長(2005-)。



A5判・上製・762頁 定価(本体 18,000円+税)  
ISBN978-4-7599-2307-0

2019年12月刊・好評発売中

## 第1部 モンゴル帝国・元朝時代の史料の考察

- 『元朝秘史』の歴史性—その年代記的側面の検討—
- ロブサンダンジンの『アルタン=トブチ』に引用されている『モンゴル秘史』について
- ロブサン=ダンジンの『アルタン=トブチ』と著者不明『アルタン=トブチ』
- 『元史』太祖本紀の研究—特に祖先物語について—
- 『アサラクチ=ネレト=イン=テウケ』と『モンゴル秘史』
- 『アルタン=デプテル』について
- 『モンゴル秘史』編纂の史料について
- 『モンゴル秘史』研究の新たな展開にむけて

## 第2部 モンゴル史上の諸問題

- オン=カンとテムジンの父子関係
- クイテンの戦いの実像
- ケレイドとの関係の分析—チンギス=カンのオン=カンに対する問責の言葉の分析を通して—
- クリイェン考
- ウィットフォーゲルの中国征服王朝論をめぐる日本の研究について

- 北方遊牧社会の基礎的研究—モンゴル遊牧民社会のステップと家畜—
- モンゴル帝国時代におけるモンゴル人の季節移動—現代の季節移動とモンゴル帝国時代の季節移動—
- モンゴルの伝統的な遊牧の地域性
- 遊牧民にとっての自然の領有
- ハンガイ山脈と陰山山脈
- モンゴル人の農耕

## 第3部 近現代内モンゴル東部地域の研究

- 近現代内モンゴル東部とその地域文化
- 内モンゴル東部における伝統農耕と漢式農耕の受容
- 興安嶺南山地の経済構造—ハラトクチンの経済の分析を手掛かりに—
- 内モンゴル東部地域の経済構造
- 近現代内モンゴル東部地域の変容とオボー
- 近現代フルンボイル牧畜社会の研究—フルンボイル盟エヴェンキ族自治旗におけるイミン・ソムのオールド族の経済と社会—

(注 文 書)

書名 **モンゴルの歴史と社会** ( ) 冊

ISBN978-4-7599-2307-0 定価(本体 18,000円+税)

**風間書房**

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町1-34  
電話 03-3291-5729  
FAX 03-3291-5757

書店名(番線)

お名前・お届け先住所・電話番号